

基本目標3「安全と安心が感じられるまち」について

市の考え方の後ろの()書きは、回答した担当部を記しています。

No	意見の内容	市の考え方
安全安心について(全般)		
1	健康も大切だが、まずは安全安心に住めるまちを目指して欲しい。	安全と安心を確保することは、市民生活を送るために不可欠な条件だと捉えています。市民の生命や財産を守り、安全、安心が実感できるまちづくりを推進することを基本目標3の「安全と安心が感じられるまち」に位置づけ、防犯や交通事故防止などの日常生活の安全性を高める取り組みや、防災に関する取り組みについて体系的に整理していきます。(企画部)
2	安全な街づくりに力を入れて欲しい。	
3	犯罪がなく安全で住み良いまちづくりを特に留意して欲しい。	
4	地域のつながりや自治会活動などが希薄になっている。防災や安心安全の面からも取り組みを充実してほしい。	
5	生活の中での安全・安心は、市民の活動ではなく、まず行政の役割を充実すべき。	
6	以前は路上駐車が多く、大和市は治安が悪いと感じていたが、最近は少なくなっていると思う。	
7	犯罪について、市役所に、市民に身近な窓口を設置してくれるとよい。	平成17年度に安全なまちづくり課を設置し、警察から提供された犯罪情報の公開や市民の皆様を対象にした防犯教室を実施するなど地域の防犯活動を推進しております。(市民経済部)
8	自治会にも防犯情報がすぐに流れる仕組みが欲しい。	警察から提供された空き巣などの身近な犯罪情報については、日々、犯罪が発生した自治会に情報を提供しております。(市民経済部)
安全安心について(交通)		
9	私有地の樹木が歩道に出っ張っている。行政から指導を。	歩道にはみ出している樹木については、土地所有者に剪定の依頼をし境界から突出しないよう、これからも指導してまいります。(土木部)
10	緑を豊かにするについて、歩道にはみ出す樹木の問題がある。	
11	自転車マナーを徹底させるための策が必要。	現在、小学生や高齢者・母親を対象とした体験型自転車乗り方教室や親子で参加する交通安全フェスタなどを開催。また、自転車通行の多い交差点等において街頭指導を実施し、交通ルールとマナー啓発に努めています。来年度からは、これらに加え、今まで参加の少ない中学生以上の年齢層への教室にも力を入れ、啓発活動の拡大を考えています。(市民経済部)
12	自転車運転のマナーが非常に悪いので、意識啓発が必要だとおもう。	
13	自転車レーンを設置して欲しい。	自転車が安心して走れる道路を確保するため、車道幅員の広い都市計画道路などへの自転車走行レーンの設置を交通管理者と協議してまいります。(土木部)

No	意見の内容	市の考え方
安全安心について(防災)		
14	災害時の危機管理体制を強化してほしい。	災害から市民の生命や財産を守るためには、危機管理体制を確立し、日頃から災害に対する備えをしておくことが大切です。総合計画では、基本目標3「安全と安心が感じられるまち」の個別目標3-2「災害への対応力を高める」の中で、災害時に対する危機管理体制を充実させ、市民、企業、行政の連携による災害に強いまちづくりを進めていくことを記述していきます。(企画部)
15	災害時の対応を分かりやすくPRしてほしい。	広報やまことや市ホームページにより、全体的な対応を周知するとともに、各地域ごとの具体的な対応は、地域の自主防災会などが主催する防災研修会や訓練の機会を通して、地域の課題を確認しながらPRしてまいります。(企画部)
16	災害時など、高齢者等の弱者を支える施策が必要である。	近年、地震などの災害において、高齢者や障がい者等が被害を受けるケースが多く見られ、本市においても、災害時における要援護者への対策が課題となっております。基本目標3「安全と安心が感じられるまち」の個別目標3-2「災害への対応力を高める」で、災害時の要援護者に対する支援について記述していきます。(企画部)
17	災害時の対応などで外国人対策が不足している。	外国人等災害時要援護者対策について、4ヶ国語によるチラシを作成し、啓発していきます。(企画部) 平成20年12月に発足した第2期多文化共生会議においては、外国人市民に対する災害時の防災ネットワークのしくみづくりもテーマのひとつとして取り組んでいます。 なお、(財)大和市国際化協会が外国人市民を対象とした防災訓練を実施しているほか、地域の自治会や災害ボランティアネットワークが、外国人市民も参加した防災イベントを行っています。今後とも、行政、地域、市民団体等が連携した防災対策に取り組んでいきます。(市民経済部)
18	要援護者の見守り体制について、民協から説明を受けたが、要援護者の情報を教えてもらえなかった。情報開示を望む。	個人情報をご本人の了解を得ないと公開することができないため、現在、要支援者への確認作業と台帳の整備を行っています。また、取り扱う側のスキルも求められていることから、地域での支援体制の構築に向け、必要な準備をすすめていきます。皆様には、今後とも要援護者の支援につきまして、ご理解ご協力をお願いします。(保健福祉部)
19	個人情報保護を主張して表札を出さない人や家族構成のわからない人などが増えている。災害時の対応をするにも、必要な情報がつかめない状況がある。	
20	個人情報保護を主張して表札を出さない人や家族構成のわからない人などが増えている。災害時の対応をするにも、必要な情報がつかめない状況がある。改善する必要がある。	同じ地域にお住まいの方同士、表札がなくとも必要な情報が共有できるようコミュニティを醸成していただきたいと思えます。そのために、より多くの地域の方が参加できるような事業を地域ごとに検討していただく必要があると思われます。(企画部)
21	個人情報の保護は行き過ぎると自治会の仕事などに影響がある。	

No	意見の内容	市の考え方
地域での防災対策について		
22	防災は地域での取り組みが大切	災害発生時には、市民一人ひとりの対応と地域での助け合いが大切です。いざというときに適切な判断と行動ができるよう日頃からの備えや訓練を怠らないことが必要であり、基本目標3「安全と安心が感じられるまち」の個別目標3-2「災害への対応力を高める」の中で、地域での取り組みについて表し、災害に強いまちづくりを進めていきます。(企画部)
23	防災倉庫の設置をする際に、様々な建築上の規制があり、不自由なので改善して欲しい。	防災倉庫設置の仕様及び手続きは、建築基準法に規定されており省略することは出来ません。しかしながら、防災上重要な建築物であるため、市では申請手数料の減額規定を設け、手続きについても建築士事務所協会と協力してモデルケースを作成し、簡略化するなどの対応を行っています。(都市部)
24	上和田地区は小学校区が3分割されており、地域のつながりや災害時の対応などで、何が出来るか不安になる。地域の実情に合った対応を望む。	地域の防災活動は、自治会単位で結成していただいている自主防災会を基本としています。小学校区にとらわれず、それぞれの地域の方々が災害に対し、地域の実情に合った適切な対応をしていただくことが必要と考えます。(企画部)
その他(防災)		
25	災害の意味がわかるようにした方がよい。火災、水害、震災等なにが含まれているか。	ご指摘のとおり、個別目標とめざす姿のタイトルだけでは、意味がわかりにくいので、個別目標の中で具体的な例示をしていきます。(企画部)
26	浸透枮設置に対する補助をすべきではないか。	現在、雨水浸透枮の設置について、制度の整備、設置基準の作成、財源の検討などを行っております。(土木部)
基地対策について		
27	基地について、大きく取り上げることはない。「被害」ということばはどうかと思う。個別目標3-3はいらないのでは。	厚木基地に起因する様々な問題については、市民が安全に暮らせるまちづくりを目指す本市にとって、極めて重要な課題であると認識しております。総合計画では、基本目標3「安全と安心が感じられるまち」の中で個別目標3-3「航空機による被害を解消する」を掲げ、厚木基地に関する諸問題の解決に向け、引き続き取り組みを進めてまいります。(企画部)
28	騒音問題は健康を考えるうえで重要な問題である。できるだけ被害が少なくなるような取り組みを進めて欲しい。	本市は人口密集地の中に厚木基地のような航空基地が存在することは適さないとの立場であり、厚木基地の早期返還と抜本的な改善を国や米国等に求めています。また、併せて神奈川県や県内の基地周辺市とも協議会を構成し要請活動を行なっています。(渉外室)
29	基地に対する取り組みは大事。	
30	飛行機、うるさいことが多い。	
31	飛行機の騒音多い。	
32	国有地の管理(草刈、樹木の剪定)をしっかり行うように国に要望して欲しい。(安全を阻害している面がある)	本市は、基地周辺の国有地や米軍が管理する土地について、責任を持って維持管理するよう求めています。また、今後も騒音をはじめとした負担の軽減を国や米軍に求めてまいります。(渉外室)
33	航空機整備時の騒音、エンジンテストを暗渠などでやれば騒音が防げるのでは。基地内の工場の騒音対策が必要。	
34	大和市は比較的若い人が多いが永住意識が低いので、基地からの収益が増える様に基地をPRしたりするなどしたら良い。	本市は人口密集地の中に厚木基地のような航空基地が存在することは適さないとの立場であり、今後も厚木基地の早期返還と抜本的な改善を国や米国等に求めています。(渉外室)